



神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク 会報第7号

KANAGAWA Rescue Support Bike Network News

2000年6月24日号, No.7

第7号の目次

- 1、「バイクを降りても役に立ちたい」 ~巻頭挨拶~
- 2、分科会所属、分科会活動の参加のお願い
- 3、3月の各イベント参加レポート
-ミニコミ誌「リベルタ」取材報告 (2000/3/15)
- 4、4月の各イベント参加レポート
-100kmバイクボランティア参加報告 (2000/4/1~2)
-オフロードトレーニング報告 (2000/4/8)
-神奈川RB南部地区会報告 (2000/4/21)
- 5、5月の各イベント参加報告
-近隣RB合同キャンプ報告 (2000/5/20-21)
-バイクメンテナンス講座報告 (2000/5/28)
- 6、かとのひとりごと ~コラム~
- 7、お知らせ/お問い合わせは

「バイクを降りても役に立ちたい」

神奈川RB事務局長 矢代幸雄



私たちは、「震災時にバイクで役に立ちたい」という想いをもちインターネット等をきっかけにして集まったメンバーです。

バイクでの活動をメインに考えてきましたが、最近中でも、よい方向付けとなる発展性のある意見がかなりのメンバーから出てきました。

バイクで迅速に被災地等に向かうことが出来たとしましょう。その場で物資輸送などのバイクが直接役立つことが無くてもバイクを降りて役に立つことがあったならばそれに参加したいという気持ちです。この考えは、メンバーが集まるきっかけになった「バイクで役に立ちたい」という思いからは、一見外れるようにも見えますが、実はRBのあるべき本来の姿なのかも知れません。

ところで、メンバーのバイクに対する技量は、様々です。支援活動時に私たちは、無理をした結果、救助される側にならないように注意しなければなりません。それには、様々なイベントによりスキルの向上や現在の自分の限界を知ることも大切でしょう。そして、その限界をより上に持っていくためには平常時のRB活動や私生活が大事であるということを再度認識する必要があるのではないのでしょうか。大きく無理する必要はありません。むしろ、大きく無理をするのは、してはイケないことなのです。しかし、小さな無理は時として自分を磨くためには、必要なのかも知れません

そう私は感じました。

分科会所属、分科会活動の参加のお願い

副代表 井上哲也



神奈川RBも設立して1年半程度経ち、最近はメンバー各位の努力により、日々の運営が軌道に乗ってきました。バイク乗りにとって面白味の薄い会議の連続でしたが、常に多くのメンバーに出席してもらった成果だと思います。

そこで、これからが本業です。「震災時に実際に動ける様に」みんなで考えていきましょう。具体的には、神奈川RB内に設置している4つの分科会ごとに、今後、専門性を持って検討・訓練していく予定です。現在の分科会の構成は次の通りです。

震災時活動研究分科会

図上・実地シミュレーションの企画、震災時に神奈川RBがどう動くべきかの戦略検討、他の団体との連携検討等。

バイク分科会

バイクによる震災時活動に関するスキルアップ(走行訓練、メンテナンス講習会の企画、走行安全性確保・装備の検討) ツーリングの企画によるメンバー間の親睦の向上等。

救急救命分科会

メンバー各人の救急救命法スキルアップ(救護法講習会の企画)、RBイベント時における救護面でのサポート、装備の検討等。

情報通信分科会

震災時に円滑に情報を連絡するためのスキルアップ(通信訓練の企画、アマチュア無線による通信実験、パソコン・インターネットの活用検討) 装備の検討等。

つきましては「自分はどの分科会に所属したいか」を事務局または井上までご連絡をお願いします。また、今後の定例・運営ミーティングについては基本的に午前中のみとし、午後は分科会活動に充てる予定です。各分科会メンバーの積極的な参加をお願いします。

3月の各イベント参加レポート

3/15 ミニコミ誌「リベルタ」取材報告

報告者: 中島信義



3月15日、かながわ県民サポートセンター10階フリースペースにて、神奈川中央新聞社・地域情報誌「リベルタ」担当、石橋あきら様の取材を受けました。平日でしたが、午後7時に始まった取材に

神奈川RBから10名の出席者がありました。概要としては

- ・JRB及び神奈川RBの活動目的、組織についての取材対応(山田)
 - ・活動参加のきっかけとバイク歴、使用バイクなど(各人)
 - ・神奈川RBの具体的な活動内容、分科会の説明など(各担当者)
 - ・県西部地震シミュレーション訓練の内容説明(坂本ほか)
 - ・インターネットの活用によるコミュニケーションについて(山本ほか)
- といったものでした。

取材中は話題が豊富で、午後9時を回るほど白熱した楽しい一時でした。石橋さんもバイク愛好者とのことで、早速神奈川RB入会のお誘いをする一幕もありました。

4月の各イベント参加レポート

4/1~2 100kmバイクボランティア参加報告

報告者: 加藤英宗



4月1~2日、千代田区シニアスカウト団の山中湖~世田谷100キロバイク(徒歩)のサポートを東京消防庁災害支援ボランティアベガサスの代表森谷さんからMeRU(日本医療救援機構)の医療



救護情報収集班として応援依頼があり、神奈川RBからは4名が参加しました。ライダーが入れ代わることで長時間のサポートをするためにバイク1台、他4名は車1台に乗車。ルートは険しい山岳路の続く道志路で活動をしました。街灯もない真っ暗な場所で私達がサポート活動

したとき、リタイヤ者があられ、アマチュア無線でバイク隊本部からMeRUの医師に連絡を行い、車で収容してもらおうという実際の活動により近い現場に遭遇しました。私たちは6時間のみの活動でしたが、ベガサスは24時間という長いサポート活動を行う綿密な行程など勉強になりました。その後1ヶ月も経たぬ間に、森谷さんの訃報を受けました。ショックは隠せません。森谷さんの御冥福をお祈り致します。

4/8 オフロードトレーニング報告

報告者: 山本泰彦



神奈川RBオフロードトレーニングが、4月8日に開催されました。講師は、神奈川RBのアドバイザーであり、元白バイ隊指導員で、警察官と消防官のオリンピックと言われる「WPFPG」のモトクロス部門

の金メダリストという経歴を持つ田嶋誠一さん。また今回オフロードバイクを持っていない参加希望者のために、ホンダ二輪東日本神奈川支店様よりTLM50をお借りしました。

まずはトライアルマシンでのスタンディングスティル、次に自分のバイクを使い、直線での確実なプレ-キングを練習。体の位置やバランスの取り方などライディングの基礎になる部分について時間をかけて練習

しました。



昼食後、実際にトライアルコースを使った練習に移りました。一人ひとりに対して田嶋さんから細かいアドバイスが飛ぶなか、転倒で足を怪我をしてしまった参加者も

いました。すぐに応急手当。上級救命講習等を受講しているメンバーが多く、こんなときは非常に有効でしたがイベントを行う際の反省点も出てきました。次に、キャンパーを8の字にまわるコースへ。コースのレベルが上がるにつれ、転倒者などもでてきましたが、スタッフがフォローに入り、また田嶋さんからは丁寧な指導が入りました。



最後は丸太越えなど、「抜重」のコース。疲れの出してきた人や、自分のレベルを越えたと判断した人は見学にまわり、次々とコースをクリアしていく参加者に拍手。すべてのスケジュールが終了したあと、

田嶋さんより講評をいただき、今回のトレーニングは終了。参加者からは「基礎をもっと練習したい」「次ももっとうまくなりたい」「初めてのオフロードも楽しめた」「はまってしまいそう」などの感想がありました。



講師田嶋様、トライアルバイクをお貸し頂いた神奈川ホンダ様、そして準備から片づけまでマネージメントしてくれたスタッフの方々ありがとうございました。またこのオフトレのレポートはオフロード雑誌「ガリル6月号」にも掲載されましたので、ぜひご覧になって下さいね。

4/21 神奈川RB南部地区会報告

報告者: 手塚則生



4月21日金曜日、会社帰りの時間にねらいを定め、神奈川RB南部地区会を開催しました。地区会とはいつも普通のミーティングよりも同じ地区の人同士、親睦の輪が繰り広げられたと思います。地区会は今後もこのノリで行きましょう。面白ければそれで良いのです。

今回は、今回出席出来なかった皆さんや、電子メールでの連絡が着かない“オフライン”の方達にもどんどん参加してもらいたく、夢は膨らみます。また皆さんに相談しますので、宜しく願います!尚、今回の

席上で神林邦彦さんの南部地区サブリーダーの就任が満場一致で決定された事を、報告します。

神林さんには今後、サブリーダーとしてとして色々とお活躍してもらいますので、宜しくお願いします。次回はいつが良いでしょうかね？

そうそう、メンバーの中に会社の保養所が、日本中にある方がいるのです。かなり気軽に使わせてもらえ

そうなお話でこれも楽しみですな。

次回は泊まりツーリングですか？

皆様、ご意見ご希望など、どしどしお寄せ下さいませ。

ありがとうございました！



5月の各イベント参加レポート

5/20-21 近隣R B合同キャンプ報告

報告者：加藤英宗、神林邦彦、矢代幸雄



窓から空模様を見て急遽神林さんは車に変更、AM8:00過ぎ海老名サポートセンターに到着しましたが、すでに矢代さんが到着していて矢代さんも「今朝、車に換えた」とのことでした。

AM8:30までに渡辺@シェルパさん、井上@ZZRさんと見送りの手塚さんが到着。井上さん曰く「車かよ～！軟弱だな～」……仰せごもつとでもでした。予定通り9:00に出発、手塚さんは「遅れて来る人がいるかもしれないので暫く待っている」とのこと。バイクが先行し車が後を追うという形で国道246号線を一路富士の丸火へ向かいました。



現地では受付後テントサイトの割振りを受け神林さんと渡辺さんは早速テントの設営を行い、矢代さんと井上さんは食料、酒の買出しに行きました。

今回の合同キャンプ参加者は約30名程度でした。途中退席・途中参加もあり遠方からは、千葉R Bの丸山さんも参加していました。



その後ツーリング(7名)と救護法講習とに別れ我々神奈川の4人は全員が救護法講習を受講しました。地元富士の救急隊員による三角巾の使用方法を中心に約2時間の教習を受けました。全員「これは役に立つ！」との感想、救急隊員にお礼を述べ終了しました。



そのうち、加藤(え)さんも栄養ドリンクの差し入れを持って現地着。自己紹介から始まり夜遅くまで歓談し盛り上がり、結局「R Bの明日」についての熱い話らいが、午前2時頃まで続いたのでした。

特に耳目を集めたのは、収納時バイクに積載できる担架についてで、

収納時には十分バイクに載るといところで皆さん興味津々でした。

翌日AM9:00に再び富士消防本部の消防車が到着し消火器

による初期消火訓練が行われ、消防隊員の方から消化器の使

い方を教わりました。その後、沼津R Bは総会終了後に十里木の

練習場に場を移すとのことで、我々神奈川のメンバーは10時ごろ帰宅の途につきました。同じ志を持った方々のふれあいの中での有意義

なイベントでした。主催されました静岡R B、沼津R B並びに参加されました近隣R Bの皆さんどうもありがとうございました。

次は、神奈川R Bが主催です。皆さんよろしくお願ひします。



5/28 バイクメンテナンス勉強会報告

報告者：奥村和征、山本泰彦

5月28日10:00より「ユーメディア湘南」様駐車場をお借りして「第2回メンテナンス勉強会」を開催しました。前日の天気予報からは想像もできない晴天に恵まれ、11名が参加しました。講師は前回に引き続き奥村が担当しました。

最初はクラッチレバーの交換。神林さんのSL230をモデルにして説明しました。ワイヤー式クラッチの場合、ホルダー側のアジャスターを締め込み、ワイヤーを緩めてからレバーを外します。ワイヤーを外したほうが作業しやすいかもしれません。ワッシャ類を落とさぬよう注意が必要です。



次は予定を変更し手塚さんのXR-B A J Aをモデルにして後輪脱着とパンク修理の実演。

抜き取ったシャフトは錆がないかチェックした後、砂や埃が付かないところに置きます。リムからタイヤを外す際はスプロケやブレーキディスクを傷めないようブロックや段差などを利用しました。タイヤはゴムで出来ているので暖かい時のほうが



作業しやすいです。また、タイヤレバーでチューブに穴を開けないよう細心の注意が必要です。後輪を装着する時にチェーンの張りについてもチェックしました。



今回は各自実習してみるところまでは出来ませんでしたが、一通り後輪脱着が終わった後、談笑がてらそれぞれが普段バイクに乗るときに携帯している(載せている)救急セットを披露しました。

こうやってバイクのこともいざという時のためのグッズの話もできて有意義な会になったと思います。

今回参加出来なかった方もこれからの梅雨の時期、愛車をじっくり点検&メンテナンスしてみたいかがでしょうか。

かとのひとりごと ~コラム~

神奈川R B副代表 加藤英宗

「いざというときのタンデム(2人乗り)技術の重要性」



私達は発災時、主に看護婦さんやお医者さん等、バイクに乗車したことのない方を乗せる可能性があります。現在、免許取得後1年は2人乗りが禁止されるほど、危険なことは承知のこと。でも基本的に2人乗れるように作成してあるバイクがほとんどなのだから、私たちには必要なのは

「後ろに安全に人を乗せることができ当たり前」

というくらいの技術なのでは?

ただ、私を含めバイク暦が長い人でもなかなか体験したことがないのが現状です。そんな今、経験したことがないのに、いざというときに実行したらどうなると思います?

だから、バイクの特性を知ったメンバー同士で練習を兼ねて、タンデムツーリング等やってみませんか?後ろに乗る人、結構寝る人が多いことに気づきます。(普段後ろに乗ったことがないと、「そんなことない」と思うかもしれないけど、これが寝るんだわ。)

そして運転者はいかに後乗者に安心感をあたえる運転ができるかを体験するんです。(これに気をつかうばかりに、後ろの人はその安心感からすぐ寝るので、起こし方も同時に勉強できます。)

ミーティングやツーリングの時に1時間程度でも使って、2人乗りの練習をしてみたいかが?(30分で前後交代して運転とかね。)

ちなみに一昨年前の9月に掛川総合防災訓練でGL1500の後ろに乗せたAMD Aのお医者さんと話をしたところ、

「震災時、オフ車の後ろに3時間乗ってお尻の皮がむけて痛かったのを覚えています。」とのこと。

そのお医者さんは訓練で乗せてもらうバイクがGL1500だったのを見て、拍子抜けしたそうです。こりゃだめだという落胆の表情もしておられました。だから神奈川R Bの活動ではできるだけGLには乗らないようにしています。



訓練会場は前日の大雨でぬかるみだらけで、GLはそのぬかるみの中を同乗者のお医者さんと共に両足つきながらのろのろ進むのが限界でした。

(ハンドルあっちにきってもこっちにひいてしまうじゃない)

現場で役に立つバイクがどういふものが経験する場にもなりました。

タンデムの重要さとともにそれぞれのバイクの特徴を活かした活動があることを再確認させられるいい機会でした。

コラム等はいつでも募集中です。

いい2のコラムVol.5も掲載予定!

次は何か?乞う御期待

お知らせ

会員の皆様へ。分科会への所属をお願いします。

神奈川R B事務局

副代表内部運営担当井上氏より分科会への所属、参加のお願いがありました。各ミーティングやイベント等で適宜井上氏やその日のイベント取り纏め者に申し出て下さい。各分科会にはリーダー、サブリーダーがいますが、さらに神奈川R Bの活動の幅を広げ、神奈川R B全体の活動力、実行力向上のためにも皆さんのご協力をお願いします。

「中島山荘」改め

「関西風・広島風 お好み焼 おにがわら」開店!

中島信義

・開店日・・・2000年7月8日(土)

・住所・・・山梨県北巨摩郡大泉町

(JR/小海線・甲斐大泉駅北約1.5km・

ダイヤモンド八ヶ岳ホテル前)

・電話・・・0551-38-4030

・セールスポイント

美味くて、安くて、ボリューム満点なコミュニケーション・オアシスです。

神奈川RB割引は有りませんが、他のお客様には内緒で飲み物、デザートでもサービスします。

事務局会報担当より

神奈川R B会員中島さんがこの7月より八ヶ岳にてお好み焼き屋を開店されると同時に会報発送等に対して、寄付の申し出がありました。そこで次号以降、会報発送協力店として広告掲載させて頂きます。

会費・寄付等振替先案内

神奈川R B事務局

なかなかイベント等に参加できない方や神奈川R Bの活動に協力して頂ける方への郵便振替による納入先、寄付受付のご案内です。

郵便貯金総合通帳

口座番号:記号 10250 番号 75716001

口座名: 神奈川レスキューサポート・バイクネットワーク

代表 山田 泰

住所:〒221 0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2 24 2

かながわ県民活動サポートセンターレターケース No.81

通信欄に必ず、「会費納入」や「寄付」等を明記して頂きますよう、よろしくお願致します。また手数料がかかりますが御了承下さい。

お問い合わせは

神奈川R B事務局

郵送先:〒221 0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2 24 2

かながわ県民活動サポートセンターレターケース No.81

Tel:046 247 7884 Fax:046 247 9539 (事務局加藤宅)

URL: <http://cools.com/kanagawarb> E-mail: katoe@sf.airnet.ne.jp

バイクによる災害時救援活動支援ボランティア

神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク会報(年4回発行)

発行者:神奈川R B会報担当 山本泰彦